

令和5年度神奈川県立小田原支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和5年度神奈川県立小田原支援学校第4回学校運営協議会	
開催日時	令和6年2月26日(月) 10:00~12:00	
開催場所	神奈川県立小田原支援学校 応接室	
出席者	委員8名(欠席2) 事務局9名	
次回開催予定日	令和6年5月下旬(予定) 10:00~12:00	
問合せ先	小田原支援学校湯河原校舎 副校長 鈴木 電話 0465-60-1800(直通) FAX 0465-60-1805 本校(小田原校舎) 電話 0465-37-2758(直通) FAX 0465-37-5356	
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由
審議(会議)経過	<p>会場参加及びZOOMによるオンライン参加のハイブリット開催 出席委員 会場参加:3名、オンライン参加:3名 計6名 欠席2名</p> <p>●【学校評価部会】</p> <p>1 会長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日、ネットがつながりにくい状況でzoomがなかった頃を思い出した。当時はこういうリモート会議を想像できなかった。直接の関わりは減ってしまったが、新しい繋がり方ができるようになった。今年度はコロナ終息に向けて以前と同じ、あるいは少し変えながら学校運営ができたのではないか。今年度1年の様子を伺い評価とご意見をお願いします。 <p>2 校長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨日、先々週と箱根は大雪になったが、小田原だけ雨で休校等にならなかった。1年間大きな事故もなく、地域と連携してやってくることができた。インフルはぽつぽつとだが、学級閉鎖等はなかった。コロナも少し。3/8高等部卒業式、3/15小中学部卒業式を予定している。 ・今年度大きく変わったことは、個別教育計画の書式を変更した。大井高校と城北高校がR8年度合併するため、分教室の定員を30名にしたが、15名となった。R6年度は児童・生徒増、教職員は減。 ・1人1台端末として、高等部はChromebook等、小・中はiPad等を使用予定。 	

	<p>3 学校評価部会（別紙資料を基に説明）</p> <p>①教育課程では、引き続き系統性のある授業を継続して行っていく。1人1台端末の導入にあたり、教職員の研修等も考えていく必要がある。</p> <p>②専門職等連携して行うことができたが、課題もある。医療的ケアも同様。</p> <p>③キャリアパスポートの活用を進めていく。シチズンシップ教育も同様。進路説明会を行うことができた。教職員への研修も必要である。</p> <p>④コミュニティスクールを通して、地域自治会長役員が避難訓練を見学することができた。交流も広がり、三つの学びの場の交流等を更に深めていきたい。</p> <p>⑤防災訓練ではより実践的な訓練を行っていく。基本的な感染症対策を引き続き行う。事故防止、不祥事ゼロを目指し、同僚性を高めていく。働き方改革として、teamsのチャットを活用した。</p> <p>・校長より：保護者アンケートと本日の協議会のご意見をまとめ総合評価とする。</p> <p>4 児童・生徒の様子・・・パワーポイント資料を基に説明。</p> <p>5 委員からのご意見等</p> <p>○1人1台端末の教職員研修は具体的には？</p> <p>⇒参考図書を探している。また、指導部他メンバーを抽出し、準備会を立ち上げた。高等部はChromebookが届き始めている。一人ひとりどのように支援していくかが課題である。新しい回線工事がこれから入る。教員用としてほんの数台支給されている。地域の小・中学校を参考にしている。</p> <p>○コロナ後の児童・生徒の様子は？</p> <p>⇒まずは校内で交流ができ、友達の様子を見て刺激になっている。外部はこれからといった所。コロナ前に全てを戻すのは難しい。プールの活動ができた。校内で大きな変化を感じる。学校生活をより楽しめているようだ。西湘高校の演奏会や部活の交流はあった。</p> <p>○キャリアパスポートの導入にあたって保護者との交流や生徒の様子はどうか？</p> <p>⇒キャリアパスポートは積み上げていく教材で、ファイル等の形式では高等部Aのみで、他は導入できていない。しかし、フ</p>
--	--

	<p>ファイルではないが、個別教育計画の中では、保護者と確認しながら記入している。</p> <p>○進路を決めていくにあたり、保護者との意見の相違はどうしているか？</p> <p>⇒進路先の見学等を高等部1年から始めている。イメージを持ちやすいように。実習を通して保護者と本人の希望を詰めていく。実習後の評価を受けて授業等で改善を図る。意見の相違は対話を積み重ねている。</p> <p>・委員より：進路の先生が一人ひとりをしっかり把握されていることに感心した。</p> <p>○現状が変わらないケースとはどういう事か教えてほしい。</p> <p>⇒具体的には不登校のケース。家庭訪問での対応や保護者は頑張っているが、どうしても本人の気持ちが変わらない。「現状が変わらない」という言葉は変更する。</p> <p>○同僚性を高めるとは具体的にどのようなことか？</p> <p>⇒お互いに知り、お互いの人権を尊重し、チーム力を高める。不祥事防止のアンケートの自由記述欄を紹介する。</p> <p>・委員より：学校の雰囲気につながっているように思えた。出会って、知り合ってより良くしていこうというのが大事。少しずつ地域にも広げていってほしい。</p> <p>6 部会報告・・・別紙資料参照</p> <p>7 意見交換等</p> <p>○R6年度より学校評価部会が変わる。</p> <p>外部の第三者評価＋学校関係者評価→より良い学校運営とサポートをお願いします。</p> <p>○校長より：一年間ありがとうございました。都合のつく方は卒業式のご参加よろしく願いいたします。</p> <p>○会長より：今後の取り組み等を伺うことができ、よい場となったのではないか。今後とも支援していくという関わりでいきたい。</p>
--	---

●【切れ目ない支援部会】

参加者 3 名、欠席者 1 名 事務局 2 名

1 人的交流による研究の報告を行った。

- ・ 7 月より毎週金曜日に 1 名の教員が足柄小学校へ定期訪問（3 学期は週 2 回）。支援級の支援に携わりながら、授業見学等を行う。8 月 29 日に足柄小学校教職員へ向けて、インクルーシブ教育研修を行う。アンケートも実施。
- ・ 毎月一回、プロジェクト会議を開き、足柄小学校への訪問報告、活動内容の計画や検討を行う
- ・ 5 つの研究の柱、①授業力の向上、UD、誰もが主体的に学べる授業を目指す ②学校コンサルテーションの質の向上 ③児童、教員のインクルーシブへの共通の認識を持つ ④教育委員会との連携 ⑤小田原支援学校で行うこと
- ・ 足柄小学校は、支援教育を基本とし、環境設定（UD など）は校内で周知されている。交流の内容を深め、より多様な児童が通常級で主体的に学習することができるように、通常級での環境や課題の設定を検討していく必要があると思われるが、それらの準備をする時間や人的な余裕が十分でない。
- ・ 小田原支援学校において、発達段階に応じた教材教具を資料として作成し、本校はもちろんのこと、ホームページに掲載し地域でも活用してもらえようとする。教育委員会とも連携できればよい。
- ・ 「おだわらユニバーサルデザイン」の提案。
- ・ 様々なニーズを持った児童の課題や特性などを見立てる力（アセスメント力）が必要
- ・ 「インクルーシブ通信」を本校と足柄小学校で発行。
- ・ 足柄小学校の支援を本校の授業にも生かし、本校の授業力も向上させられればよい。

2 情報交換・意見交換

○市内小学校に訪問しているが、通常級の児童の授業参加に対しての困りが先生から出される。支援級だけでなく通常級への支援はどのように考えているか？

⇒通常級でのインクルーシブ教育をどう進めるかがこの研究の目的。特別支援の視点をもって支援することを行なっていければとよい。

○多様なケースがあると思うが、相談のケースとしてよく上がるものはどんなものがあるか？

⇒授業からの離脱、不適切な行動、他害など。教室環境の整備、意志の発出やコミュニケーション力の検討、アセスメントにより児童生徒の実態を把握し授業内容を検討する、視覚的支援を検討、見通しが持てる支援などを検討していくことが多い。

○登校できないというケースの相談はあるか？

⇒不登校児童・生徒の巡回相談は、本人の様子を見ることができないためあまり相談はないが、来校相談で行っているケースはある。

○研究目的の3番目、通常級でのインクルーシブ教育に関する児童・生徒のエピソードがあったら。

⇒居住地交流で、交流級児童が本校児童の困りを察知し、自ら配慮をする場面があった。インクルーシブ教育は、教員の力のみで進められるものではない。児童・生徒が他者の多様性を認め、尊重し、自治的、主体的な活動となることも大切。

○来年度、就学前児童発達支援施設を卒園し、地域へ就学する児童がいる。歩くのが難しい疾患もあり、医療的ケア児。インクルーシブの視点で保護者が希望した。施設としては特別支援学校かと思ったが。特別支援学校は、今後どのように地域の教職員と関わっていくことを考えているか。

⇒昨年10月に小田原市教育委員会の訪問があった。市内の支援に活かすという視点で、本校の各学部の支援、摂食指導、医療的ケアなどについて見学された。地域の学校での医療的ケアの相談も行なっている。連携しながら地域センター的機能を発揮していきたい。

足柄小学校から地域へ広げていくということも。

●【防災部会】

参加者 2名、欠席者1 事務局 3名

1 小田原校舎

- ①次年度にむけて・・・資料あり
- ②防災備品について・・・資料あり
- ③地域との連携について・・・資料あり
- ④スマイルメイトの情報・・・B部門卒業生の会から

2 湯河原校舎

- ・太陽光発電に不具合があることがわかり、工事が2回あった。そのおかげで停電時にエレベーターが使えるようになった。県の対応は、脱炭素化推進課という所が変わった。
- ・避難訓練では、より実践に近づけるということで、人工呼吸器使用の生徒を抱っこして、保護者も参加してもらって避難している。

3 情報交換・意見交換

- 能登半島地震のニュース等で障害がある人が大変そうだった。難訓練を通していつもと違った状況にも慣れるようにしていってほしい。
- スマイルメイトの情報が有益だった。オンライン診療の登録等、できることはやっておきたい。
- 地震は起こりうるので、障害のある人はより苦しい立場になる。事前にできることはなんでもやっておきたい。福祉避難所になることを想定して、運営に必要な物、マニュアルの作成等を行う。
- 实际的・役に立つ防災設備。多くの人にも小田原支援学校を知ってもらう機会を大切にする。
- 学校より：近所の方から災害時に避難できるかと問合せがあった。一時的には避難できるが、別の場所に移動してもらうことになる、物資等は無いことを伝えた。

	<ul style="list-style-type: none">○学校より：平塚商業高校で泊まりの避難訓練に参加した。夏、体育館は暑く、網戸が無いため、虫が入ってくる。とてもつらい環境。イライラすると大人の意見は聞かないが、生徒の意見は聞きやすい。高校生の力は戦力になる。本校でも少しずつ防災教育を取り組むと良い。○学校より：茅ヶ崎支援で東日本大震災の時は、親が迎えに来られず、防災食を食べて過ごした。また、防災訓練に地域の方が参加し運営に参加するのを見ることができた。○平日の日中に災害が起こると、働き手が地元にいない。中学生も防災訓練に参加して、人手として動けるようになってもらうことも考えられる。
--	---